

めたり、實を收穫するには、綠枝剪定（夏季剪定）は最も必要な作業です。樹枝の整ふのも、結果枝のよく着くのも、この作業によつて、八分通りは決定されるのであります。

結果させた枝は、果の着点より下に翌年の結果枝を作るやうに工夫せねばなりません。それには込み過ぎた新梢は適當に間引いて基部の新梢に日光をあて、勢力を集めるのです。場合によつては上部の勢ひの強い部分を切り落して、下部の中等以下の枝を刺戟するやうにします。

結果してゐない枝には、上に伸びる勢の極めて強いものが多いのです。適當の箇所副梢（今年出た新梢の葉液から再び出た新梢）のあるものは、それまで切りつめて副梢に花芽を持たせるやうに工夫するのです。また前年の枝の基部に適當の新梢があつて、上部の新梢の強い場合は切り戻して基部の新梢に花芽を持たせるやうにします。

そしてこれ等の作業は六月から七月までの間に行ひます。

### 整枝の方法

整枝の方法は、桃は盃狀が理想の形ですが、併し紋切型の盃狀を強いて作る必要はありません、大體樹の頂部が半球狀に開いたやうに作つておけばそれでよろしいのであります。

植付けた年には、苗木を普通六十センチぐらゐの高さに剪定して、新梢の四十センチほどに伸びた時に摘心して、更に二枝づゝ分枝させれば、一年に二段は易々と作れます。そして木の完成も大層早いのです。三回以上分枝させることは、最終の枝が弱しく思はしくありません。四年目になりますと可なり收穫も得られます。

### 觀葉の優る枇杷

栽植場所

花の見るに足らぬ枇杷は、観葉として捨てがたい雅趣を持つてをります。陰陽の樹性はやゝ異なつてゐますが、矮性に整枝すれば「やつで」の代りにもふさはしいものです。雨にも垂れず、雪にも堪へて四季濃緑な色彩の變らぬ葉は、観葉として果樹中唯一のものといつてよろしいのです。

栽植の位置は、宅地内何れへ配植してもよろしいのですが、道路に面したところ、住居の暴露をふさぐところなどに極めて適當してゐます。

適地

適地は乾燥に過ぎぬ礫質壤土で、冬は強風を受けぬことが理想ですが、桃とか梨などに比べますと、適地の範囲は更に廣いのです。しかもこのやうな理想的事情に背反した地に、防風目的を主眼に栽植した人の話によりますと、かなりの成績を収め得た

といふことです。

整枝と剪定

整枝や剪定の手数は至つて少ないのです、樹性が極めて規則的に正しく外方に張ること、開花期が冬に跨がる關係上、結果枝の切り詰めなど、他の果樹のやうに行ふことが出来ないのです。

植付け當初も、苗木の切り詰めは行はないのです。木の高さと、廣がり、空地の廣さを豫想して、間隔などを適當に定めるのです。

高さについては矮性と喬性の組み合わせは妙です、即ち後段を喬木にし、前段を矮木に整枝して行くのです。この栽植は平面と立體の空間を遺憾なく利用が出来るのであります。

櫻の高垣の代りなどによい思ひつきであつて、住居の暴露を塞ぐためなどには幽邃

崇厳ともいふ感じがします。たゞ樹垣に比べて巾にあたる平面を多く要するけれど、それだけまた實用價値が増して行くわけです。

徒長枝や不用見込みの枝などは、早目に除くやうにすれば、樹形はたやすく整つて行きます。特に注意すべきは初冬から春へ跨つて開花結實しますから、冬季剪定で無暗に枝先を切り詰めることのないやうに慎まねばなりません。

品 種

品種は雑多のものを多く見受けますが、一房の粒数は多くても種子が大きく、外觀も思はしくはありません。茂木枇杷、田中枇杷などのやうな果の偉大な品種を栽植するのが、骨折り甲斐のあるやうに思はれます。

潇洒優雅な花の梨

栽 植 場 所

植植場所と整枝、樹形の應用の廣いことは、果樹中梨を第一に推さねばなりません。立木形の應用、柵作り、垣根型（壁型）など、その各についても自在に形をかへることが出来ます。それだけ植栽の場所も選擇範圍が廣いのであります。柵作りを第一として立木作りもやゝ廣い平面を要しますが、垣作りは細長い面を縦に使用することの出来るのが特典です。

宅地内の通路に沿ふあたり、植込みや花園の周圍、建物の壁に沿ふた狭い空地、全く垣根代用として好きな形のものとして使へるのであります。そして垣根形にもバルメット、コルドン、V字形、U字形などがあります。

適地と品種

植付け地は、極端な過乾、過濕と風通しの悪いところを避ければ、何處でもよろしいです。

品種は西洋梨、支那梨を避けて日本梨を推奨したいのです。それは日本梨は結果期に入ることも早く、樹形の完成も早く、それに徒長する憂ひが少なく、花の觀賞としても外國種より美感が多いからであります。

それから注意すべきことは、梨には白花不結實といつて、長十郎種のやうに同一品種の花粉によつては受精の行はれがたい品種がありますから、さういふものは授粉樹として他の品種を混植することが必要なのであります。

果樹の鉢作り方

種類と苗木について

果樹栽培は、廣い果樹園とか宅地の廣いところでなければ出来ないやうに思はれてゐますが、併しこれは鉢や木箱などでも作る事が出来るのであります。

この鉢作りや木箱作りに適するものは桃、梨、苹果、柿、無花果、枇杷、スグリ、金柑、レモンなどですが、一般的にいへば苗木は前年芽接ぎをした節間のなるべく短い根の發育の良好な一年生か二年生のものが適當です。

砧木としては矮性砧木が最も適してゐるのですが、矮性砧木でなくとも、栽培は出来ません。矮性砧木としては、次のやうなものがよろしいのであります。

桃、李——郁李

果樹の鉢作り方

梨 —— 楡勃

苹果 —— パラチー

### 培養土とその肥料

#### 培養土

培養土は、普通の壤土であればよろしいのですが、新しく造るには粘土二、砂一、堆肥一、石灰〇、五ぐらゐに骨粉又は過磷酸石灰を少量加へたものが適當です。また前記のものに油粕又は大豆粕などを加へて二三月ほど堆積して置くと、理想的のものが出來ます。

#### 肥料

肥料は魚肥、油粕、大豆粕、骨粉、厩肥、落葉などよろしいのですが、本数の少な

い時は、幾分高價なものになりますが、調合せられた園藝肥料を施すのが便利であります。どちらにしましても肥料は腐熟させておく方がよろしいのです。

### 栽植の方法について

#### 時期

栽植の時期は十月から十一月頃が適當な時期ですが、一二月頃でも差支へはありません。寒い地方は春の方がよいやうです。併し芽が動き出しますといけません。枇杷又は柑橘類は、他の落葉果樹よりは遅く、まづ三月下旬から四月頃の方がよろしいのです。

#### 鉢

鉢は素焼鉢で、最初は七寸ぐらゐで、次第に大きくして三四年の後には一尺乃至一

尺四五寸の鉢を用ひます。鉢の代りに桶とか箱などを用ひてもよいのですが、その時は必ず底に孔をあけねばなりません。

植ゑ方

まづ最初鉢の底に、鉢の破片又は瓦などで孔を塞ぎ、次に小石か木炭などを一寸ぐらゐ入れて排水のよくなるやうにし、それから培養土を入れるのです。培養土を少し入れてから苗を入れ、根の配りをよくし、また土を入れて苗を揺り動かし、根に土が密着するやうにします。そして鉢の上端から五六分低目に土を盛り、よく根邊を壓した後で、充分に水を灌ぐのです。

なほ栽植の際には苗は芽をよく吟味して、嫁接部から一尺ぐらゐの高さに主幹を切り、根部は二三寸以内に剪定をせねばなりません。

灌水と追肥について

灌水

灌水は、少しづつ何回もするよりは、一回に多量の方がよろしいのです。度数は、盛夏のよく乾燥する時には、午前中に毎日一回、その他は隔日に一回ぐらゐでよろしいのです。尤もこれは天候の如何によつて加減せねばなりません。八月頃は、花芽の着生を促すために、平常の半量とするのがよく、九月に入ればだん／＼増加し、落葉後は中に埋めておけば灌水の必要はありません。

追肥

追肥としましては、油粕、糠などに水を加へて醸酸腐熟せしめた後、三四倍の水にうすめたものがよろしいのであります。これは栽植後直ちに施すのはいけません、約

三週間後に施すべきものです。その後は毎月二回ぐらゐの施肥で開花結實します。以上の肥料の外に、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、硫酸加里などを適宜に分施してもよろしいのですが、濃厚なものを施しますと、却つて植生を害しますから、化学肥料の施肥にはよほど注意を必要とします。

### 土の取換へと移植

栽植して一年経つたら、表土を五分ほど取り換へる方が、木の成長を速かにします。また大きな鉢に移植する場合には、灌水して土を浸した後、丁寧に鉢をたいて抜き取ります。そして周囲の土を四五分削り落して後、大きな鉢に移し、前に記した培養土を入れます。時期は栽植と同じやうに、木の休眠季がよろしいやうです。

### 各果樹作り方の要訣

#### 和 梨

品種 早生では前鎔、獨逸。中生では長十郎、二十世紀。晩生では今村秋、晩三吉などが優良なものです。長十郎は自家不結實ですから、開花期に他の品種とならべておくことが肝要です。

鉢植では一本の砧木に數品種を接ぎ木すると面白いものです。それも早生と晩生とを接ぐやうにしますと、早生の果實を收穫した後で、晩生が次第に成熟します。

接ぎ木をするには、八月中旬から九月中旬にかけて芽接ぎをするか、十月中旬頃に腹接ぎを行ふかすれば、活着良好です。特に秋の腹接ぎは、花芽を持った枝を接ぎますと、翌年開花結實しますから、眞に興味ある方法であります。

樹形 和梨は、樹形はどんなでも割合によく結實するものですから、自分の好みによればよろしいのです。併し無難なのは圓錐形か盃形状かで、圓錐形にするには、栽

種の時主幹を一尺内外に切り、春五六本の枝を發生せしめ、先端の一枝は直立させて、他の枝は主幹と約四十五度の角度で、四方に平等に横出させるのです。そしてその翌春また同様のことを繰り返し、毎年一回づゝ増して、二三段で止めるのがよいやうです。

それから盃形状に仕立てるには、栽植の時に一尺ぐらゐに剪定し、春主枝を出させて三方に誘引し、翌春各主枝から二枝を出させますと、都合六本の主枝となり、大體の樹形が整ひます。

開花結實 和梨は、栽植の翌春に花をつけますが、これは除く方が木のためによろしいのです。二年目には三四個結實させて他は摘除すると立派な實となります。開花期には筆の穂で花粉の人工媒介を行いますと、結果が大變よろしいのであります。

落葉後は、鉢を土中に埋め、冬期には剪定と整枝を行ひ、翌春三月上旬頃に

掘り上げます。

なほ苹果は、大體和梨に準じてやれます。結果期は梨よりも遅く、五六年を要する  
ことになります。

### 葡 萄

品種 葡萄は、米國種ではキャンベルス・アーリ、デラウエア、ペーコン、ナイヤガラ、レデーワシントン。歐洲種ではブラック・ハンブルク、マスカット・オブ・アレキサンドリア、シヤスラー・ド・フォンテンブロー、甲州などが優良であります。歐洲葡萄は雨量の少ない地方か、硝子室かで栽培されるものですが、鉢植栽培によると、これ等の優良種も栽培することが出来、美味な温室葡萄を家庭で栽培して味ふことが出来るのであります。

樹形 苗木は免疫性砧又は野葡萄に接ぎ木した二年生苗木か、一芽挿苗がよろしい



のであつて、まず、栽植の際主幹は三芽を残して、四五寸のところを切り、翌春一番上の芽はそのまゝ添竹をして真直に成長させ、側枝は二芽を残して摘除します。さうしますと大抵四五尺から六七尺くらいまで伸びますから、二月頃四五尺ぐらゐのところを剪定します。そして主幹を曲げて数本の竹に結びつけ、春になつて枝が伸びると、丁寧に竹に結びつけるのです。

管理 開花結實の時は、なるべく日當りのよいところに置き、雨にあてないやうに注意することが肝要であります。

果房は適宜に摘果しますと、粒が大きくなりますし、またよく揃ふものです。

無花果

無花果は栽植し易い果樹で、本植の翌年には結果します。發根の極めて容易なものですから、苗木は主に挿木で仕立てます。それは節間の短い、よく充實した前年生の

枝を、六七寸ぐらゐに切り、二三月頃、庭の片隅に挿して置きますと、一年で立派な苗が得られます。

無花果の重なる品種はホワイト・ゼノア、サン・ベト、ロマンティック、マクソンサターキー、ドーフィン、それに在來種などであります。

無花果は葉も幹もちよつと雅致のあるものですから、盆栽にして面白いものです。併し結果の多いのは自然的な盃状形です。栽植の時に五六寸ぐらゐに主幹を切り、翌春数枝を四方に伸ばすのです。

冬期剪定して三四本の主幹として、形を整へるとよろしいのです。

### 果樹十二ヶ月手入れ

果樹の手入れなどについて、各項にそれ／＼述べましたが、更にこゝには一番分り安く、その月々にわけまして、手入れの方法をかゝげることいたします。

#### 一月の手入れ法

葡萄 棚や垣の杭、竹、針金などの取り替へを始めてよろしいのです。

梅 枝が密生して相互に入れ交つてゐる部を間引きます。そして切り接ぎはこの月の末から始めます。

柿 寒肥を與へます。寒肥とします肥料は、次のやうなものを配合しまして、溝一様に施すのであります。

堆肥	二貫匁
大豆粕	五合
米糠	五合
草木灰	一升
過燐酸石灰	二合

但しこれは植付け後五年目の柿一本に施す肥料の量の一例でありますから、若い樹にはこれより少くしなければなりません。

これを施すには、柿の樹の根のまはりに輪狀に深さ八寸の溝を掘つてこの中に施し、土とよく掻き混ぜて土を覆ふて置くのであります。

柑橘類 枯枝や懐枝や下垂枝などを剪定します。併し太い枝を剪ると枯れ込み易いので、差控へた方が安全であります。若し考へなしに太い枝を剪りました時に

は、切り口に接ぎ蠟かびんつけを塗抹して置きますと、被害を免れることが出来ます。無花果 根本の周囲の土を鋏で深く掻き除きまして、寒風にさらしますと、根本で越冬してゐる害虫を駆除することが出来ます。枇杷 根本に落ちた枯葉は、残らず掻きあつめまして、一定のところで焼却します。桃 冬期剪定を行います。

二月の手入れ法

葡萄 一芽挿を始めてもよろしいのです。砧木仕立用の挿穂を採集し、風通しや水掛けのよいところに川砂を盛りまして、その中に貯蔵します。栗 條はこの月から行ひます。

梅 切り接ぎを行います。

柿 根挿はこの月に行ふのが最もよろしいのです。冬期剪定もそろ／＼始めてよいのであります。

柑橘 寒肥を與へます。寒肥とする肥料は、次のやうなものを選びまして配合し、柿と同様に輪肥として施します。

菜種油	二升
米糠	五合
骨粉	五合
過磷酸石灰	二合
草木灰	一升

但しこれは植付け後五年の夏橙一本に施す肥料の量の一例です。無花果 根本の掻き除いた土を元の通りに返し、以前よりは少し高くなるくらゐに

します。この時に一本に對して堆肥二貫匁、生石灰五合を混合しましたものを埋めてもよろしいのです。それから地上に落下しました枯葉は、埋めない方がよろしいのであります。

枇杷 根元を浅く耕しまして、下肥を撒布してもよろしいのです。

桃 冬期剪定を引續き行ひます。剪定を終りますと、越冬中の病害を驅除し、發生を豫防するために二斗式ボルドー液を撒布します。肥料としては、五年生一本に對して油粕二升、過磷酸石灰二合、草木灰一升を配合して輪肥といたします。

柘榴 枯枝や發育の悪い下垂枝、徒長枝などの剪り縮めを行ひます。

郁李 壓條を行ひます。

胡頹子 寒出を施します。根本のまはりを浅く掘り起しまして、一株に一斗ぐらゐの下肥を撒布し、後で周囲の土を盛つて置きます。

### 三月の手入れ法

葡萄 杆挿はこの月に行ひます。移植は成るべく今月中に終へるやうにしたいものです。植付け後五年目の葡萄樹一株にこの際施す肥料の量の一例を示しますと、次のやうであります。

堆肥	一貫五百匁
大豆粕	五合
草木灰	一升
過磷酸石灰	二合

但しこれは輪肥として施してもよろしいのです。株の兩側に溝を掘りまして、その中に埋めてもよろしいのであります。

梅 切り接ぎを行います。

柿 切り接ぎはこの月に行ふのが最もよろしいのです。砧木は實生柿でも、君遷柿でも構へません。

柑橘 寒肥をまだ施してゐなければ、成るべくこの月中に施します。それから防寒設備は取り去ります。

無花果 盛取法を行います。元肥として堆肥、米糠、魚肥、草木灰などを配合して施します。肥料を施すには、輪肥としてもよろしいのですが、株を中心として放射状に溝を掘り、その中に埋めるのがよろしいのです。

枇杷 移植を行つてもよろしいのです。肥料としましては、成木一株に對して大豆粕一升、過燐酸石灰一合、堆肥一貫、木灰三合ぐらゐを配合しまして、やはり放射状に施すのであります。

桃 切り接ぎを行います。

柘榴 壓條や切り接ぎを行います。肥料は大豆粕、下肥、草木灰、過燐酸石灰などを配合して輪肥とします。

郁李 根本を浅く掘りまして、下肥を三升ぐらゐを施します。

胡頹子 徒長枝を剪り詰めたり、密生した小枝を剪り除きます。

#### 四月の手入れ法

葡萄 芽掻き、摘心を怠つてはなりません。

梅 追肥を施します。下肥(二倍の水に溶かして)か硫酸アンモニア(水一斗につき硫酸アンモニア一合を溶かして)を水に稀釋して約一斗を、根元を耕しまして撒布します。

柿 病蟲害を驅除するために、ボルドー液

及び石油乳劑を撒布します。切り接ぎはこの月下旬頃までに終るやうにしたいのです

柑橘 移植を行つてもよろしいのです。乾きを防ぐために、敷藥をすることが肝要

であります。根接ぎも行つてよろしいのです。

無花果 挿木や壓條を行ふに適してをります。

枇杷 切り接ぎを行ひます。寒地ではこの月移植を行ふのがよいのです。果實の大

きなものを得ようと思へば、適宜に摘果します。摘果後は病蟲害を防除するために、

袋掛けを行ひます。秋芽かうんと伸びた枝は、この月中に剪り縮めるのがよろしいの

であります。

桃、追肥を施します。成木一本に對して下肥一斗二升ぐらゐを根元を淺く耕して撒

布し、土を覆ふて置きます。

柘榴 挿木を行ひます。追肥として茶種粕三合ぐらゐを水一斗に溶かして施しても  
よろしいのです。

郁李 あぶら蟲を驅除するために乳劑や粉劑を撒布します。

胡頹子 あぶら蟲も成るべく今のうちに驅除した方がよろしいのです。その方法ば

郁李と同じであります。

### 五月の手入れ法

葡萄 摘心や誘引を行ひます。序でに不用の結果枝は除去します。小金蟲が旺んに  
發生して樹を喰害しますから、成るべく朝のうちに捕殺しなければなりません。

梅 毛蟲やあぶら蟲が發生しますから、あまりに繁殖擴大せぬうちに、藥劑を撒  
布しまして、防除すべきです。藥劑としては除蟲菊粉末、サイアノガス、フアー

ムインセクテイスайдキなどが割合に實用的であります。

柿 刺蟲を驅除するためにデリス劑を撒布します。また割接ぎを行つてもよろしいのです。

柑橘 切り接ぎはこの月の下旬がよろしいのです。砧木には柚か枳殼を用ひます。それから病害の防除を行います。

無花果 幹にそろく天牛がたづねて來ますから、毎朝や幹葉の裏などを覗つて、捕殺を行います。

枇杷 袋掛けが済んでゐないものは、この月の上中旬までに終へるやうにしたいものです。櫻島早生や地枇杷のやうに果房の小さなものには、袋掛けの必要はありません。

桃 摘果を行います。枝の發育程度に従つて、一枝に一顆又は二顆を残し、他は摘

み取るのです。そして摘果しましたものには、間もなく袋掛けを行います。

柘榴 根元に出來ます傍藥は鎌又は小刀にて基部から切り取り、周囲の土を僅か高くなるくらゐに、其處へ盛つて置きます。

郁李 あぶら蟲を驅除します。

胡頹子 引續いて害蟲の驅除をいたします。

### 六月の手入れ法

葡萄 摘心及び誘引を行います。種枝は七八節のところ、摘心し、孫枝は一節か二節を残して摘み取ります。結果枝は八九節のところ、摘心をします。誘引しますには、蘭草、ラフイヤ、打葉などを用ひます。除草、病蟲害の驅除などをも行ひます。

梅、收穫をします。まづ株の周囲の雜草を刈り取りまして菰を敷き、竹竿にて叩き

落すのであります。

柿 摘果を行ひます。摘果を行ひますには、果梗の下から木缺で摘み取ります。もぎ取ることはいらない方がよいのです。あまりに枝が交錯しました部分は、間引を行います。

柑橘 病蟲害を驅除するために、薬剤撒布を行ひます。

無花果 夏果を收穫します。幹を見廻りまして鋸屑やうの糞を噴き出した孔がありましたならば、その孔へ石油を注ぎ込むか、針金をつき込んで、中にゐる蟲を殺さねばなりません。

枇杷 前月に引續いて收穫を行ひます。除草と中耕をかねて浅く耕します。

桃 蚜虫喰蟲、炭疽病などの病蟲害を防除するために、薬剤を撒布します。

郁李 收穫を行ひます。

胡頹子 收穫を行ひます。

### 七月の手入れ法

葡萄 追肥を施します。下肥、硫酸アンモニア、智利硝石、硫酸加里などのうち、得易いものを水に溶かし（下肥は二倍の水に、他は水一斗に一合の割）たものを、根元を軽く耕しまして、其處に施します。

梅 根元に刈草を敷きます。

柿 袋掛けを行ひます。追肥として下肥を一斗二三升を施します。それから密生した緑枝を剪定します。

柑橘 摘果を行ひます。

無花果 補肥を施します。まづ株の周囲の除草を行ひ、軽く耕しまして、三倍の水

果樹手入れ十二ヶ月



に薄めた下肥七升ぐらゐを株を中心として輪状に施します。施肥が終りましたら、軽く土をその上に覆ふのです。

枇杷 今年結實しました枝を基部から剪除します。そして輪肥を施します。輪肥としましては堆肥一貫匁に過燐酸石灰一合を配合しまして、輪肥とします。前記二肥料の代りに鶏糞五百匁を施してもよろしいのです。

桃 收穫を行います。

柘榴 徒長した枝を基部から除去します。

### 八月の手入れ法

葡萄 追肥を前月施してなければ、この月中に施します。それから除草を行います。收穫の適期です。

梅 芽接ぎを行います、除草と中耕をかねて行ひます。

柿 芽接ぎを行います。早生の甘柿は今月中旬頃から收〇します。

柑橘 追肥を施します。六七倍の水に薄めた下肥一斗ばかりを用ひます。

無花果 秋果を收穫します。朝又は夕方見廻つて天牛を捕殺します。幹を喰害する

鐵砲蟲は、前記の方法で驅除します。

枇杷 芽接ぎを行います。除草、中耕を行ひ、その跡へ敷草をするのがよろしいのです。

桃 芽接ぎを行います、收穫は最も旺んに行はれる時です。

柘榴 追肥を施します。肥料は硫酸アンモニアを一斗の水に一合乃至二合を溶かし用ひます。

九月の手入れ法

葡萄 収穫を行います。

梅 傍薬を切り取ります。

柿 追肥を施します。下肥を三倍の水に薄めたものを、一斗五升ぐらゐの輪肥として與へます。間作として大根、白菜、紫雲草などを播きおろします。

柑橘 徒長した枝は三分の二を残して、他はこれを剪り除きます。

無花果 収穫を行います。天牛や鐵砲蟲の驅除を前月に引續いて行ひます。

枇杷 剪定を始めてもよろしいのです。密生した枝、枯死した枝、徒長枝などは基部から切り取ります。發育善良な枝は三分の二を残してこれを剪り縮めるのがよろしいです。

桃 間作として紫雲英、ザードウキツケン、除蟲菊などを播種又は植ゑつけます。

柘榴 移植はこの月に行つてもよろしいのです。

郁李並に四類子 根元には敷草をしまして、乾燥を防ぐのであります。

十月の手入れ法

葡萄 除草を行います。間作するには菘類か葱類を選びまして播種するがよろしいのです。

梅 間作としましては豌豆、蠶豆などがよろしいのであります。播付けは成るべく早く終へるやうに工夫したいものです。

柿 收果期に入ります。根本の除草を行ひ、足場を安定にしましてから、收皿にとりかゝるべきでせう。

柑橘 徒長枝はこの月末までに是非剪り縮めたいものです。

無花果 傍薬が生じた場合は、株元に塵芥などを小高く積んで置きますと、發根を促すことが出来ます。

枇杷 移植を行つてもよろしいのです。間作としては紫雲英や蠶豆よりも牛蒡や草毒を作る方がよいのです。二つともこの月中に播種又は植込みを行います。

桃 間作は今月中に作付を終るやうにしなければなりません。

郁李 移植を行ふによい月です。

### 十一月の手入れ法

葡萄 中転を行ひます。深く掘るとよくありませんから、表土を五寸ぐらゐ打ち起す程度に止めるのです。

柿 收皿を行ひます。結果した枝は果實と共に掻き取つてもよろしいのですが、隔年結果をし易いのですから、成るべく結果枝の太い部分だけは残して置く方がよろしいのであります。

柑橘 收〇を行ひます。

無花果 中耕を行ひます。葡萄と同じく表土を五六寸の深さに打起すに止めます。

枇杷 肥料を施します。

柘榴 收皿を行ひます。

田頰子 移植を行ふに最もよい時であります。

### 十二月の手入れ法

葡萄 中耕を前月に行ひおせんでしたら、この月に行ひます。落葉は土中に埋入す

果樹手入れ十二月

るよりも、これを集めて焼却するのがよろしいのです。  
 柑橘 収穫を行ひます。防虫設備をなします。まづ樹幹に二本乃至三本の支柱を縛りつけまして、枝葉の大部分があらまし隠れる程度に藁又は空俵にて蔽ひ、風のために飛散せぬやうに細で縛つて置くのです。  
 桃 中耕を行ひます。

誰にも果樹の作り方終

昭和七年二月二十日印刷  
 昭和七年二月二十六日發行

【定價金八拾五錢】

不許複製  
 果樹の作り方

著者 東京園藝研究會編  
 發行者 鈴木喜三郎  
 印刷者 長澤鉄五郎  
 印刷所 盛陽堂印刷部

東京市淺草區南元町廿八番地

發行所

振替東京一四七〇六  
 電話淺草二八二一

盛陽堂書店

素人は論玄にも歡るれば叢書

誰にも  
出来る  
蔬菜の  
作り方

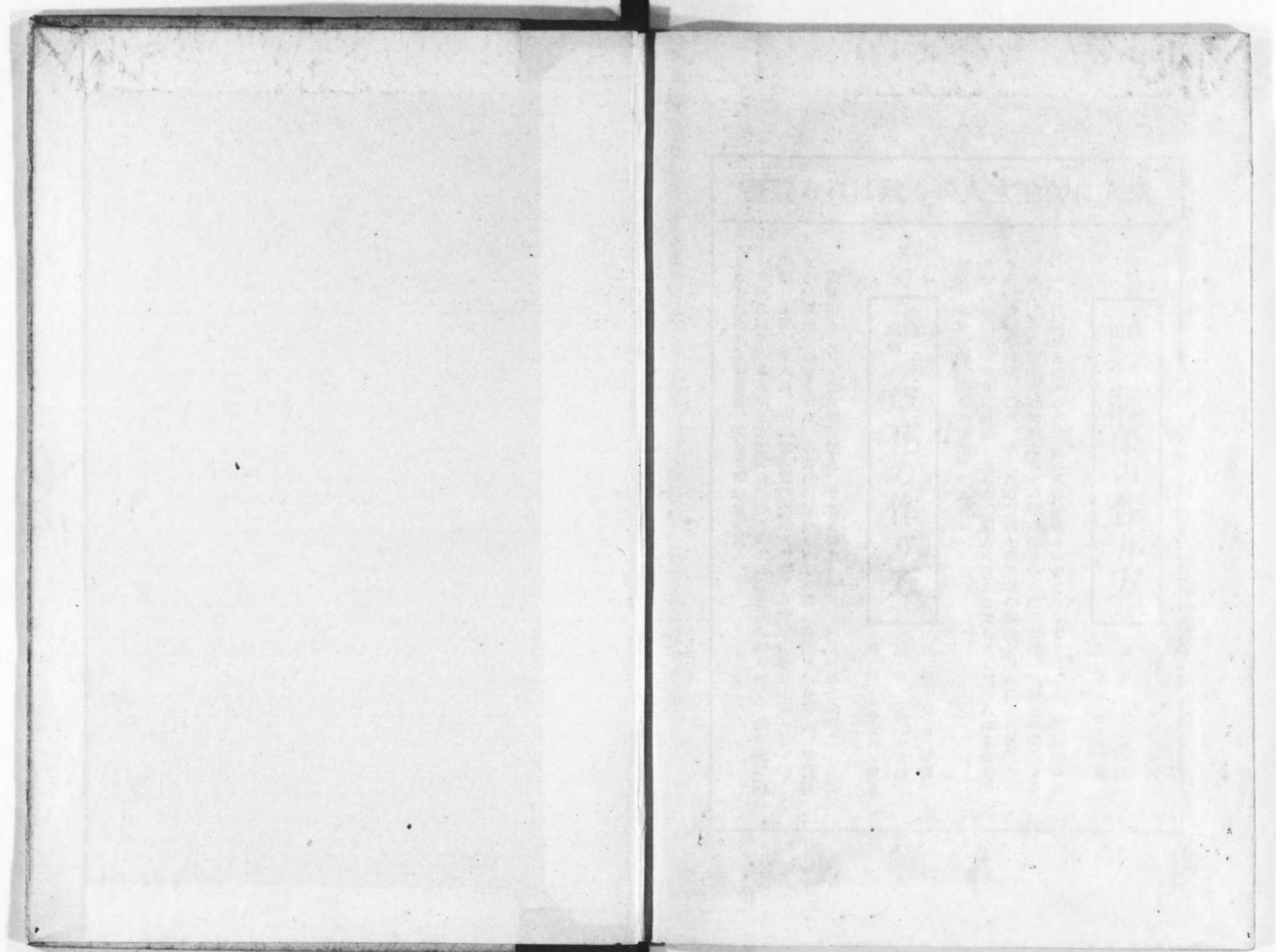
四六版函入二百三十頁  
定價 金八十五錢  
郵税 金六錢

一口に蔬菜とはいふが、俗に八百屋物といつてゐるやうに、その種類は極めて多く、その作り方は勿論決して一様ではないのだ。土質、氣候との關係はどうか、播種の時期、施肥、手入れの方法と實際家の體驗を基調に、一讀何人にも會得の出来るやうに説述したもの、素人は言ふまでもなく、玄人にもなくてはならない一卷、是非御購讀を乞ふ。

誰にも  
出来る  
草花の  
作り方

四六版函入二百三十頁  
定價 金八十五錢  
送料 金六錢

觀賞用として、また切花用としてちよつとした空地利用の草花栽培は、なかなか興味深いものだ。本書は四季いろ／＼の草花の性状から養土、播種の時期、施肥や手入れ、病蟲害の豫防驅除と、多年の實地經驗を土基とし、苟くも草花に關するあらゆる方面にわたつて懇切に説き及んだもので、愛好家に缺くことの出来ない良書、進んで御購求を冀ふ。



終

